

12月18日 待降節第4主日

天使のとりなし

マタイによる福音書 1章 18～24節

¹⁸ イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。¹⁹ 夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。²⁰ このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。²¹ マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」²² このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

²³ 「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。

その名はインマヌエルと呼ばれる。」

この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。²⁴ ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおりに、妻を迎え入れ…。

他の朗読：イザヤ 7:10～14 詩編 24:1～6, 7, 10 ローマ 1:1～7

Lectio …読む

私たちは待降節の日々のうちにイエスの誕生へと導かれています。本日の福音の前の節(1～17節)の中でマタイは、ユダヤ国家の父アブラハムの子ダビデ王の子孫であるイエスの家系について既に述べています。神はアブラハムに、彼の子孫を通して全人類を祝福すると約束されました(創世記 12章 2、3節)。

ルカによる福音書 1章 26～38節の中で告げられている、マリアと天使ガブリエルとの出会いはよく知られていますが、ここでは「聖霊によって身ごもっていることが明らかになった」とだけ書いています。

マタイはそのかわりに、ヨセフの天使との出会いに焦点を当てています。ヨセフは婚約していました。しかし許嫁のマリアは、身ごもっている、とヨセフに告げます。ヨセフは自分が父親でないことが分かっているので、婚約を解消しようとしています。当時のユダヤの社会において、婚約は既に法的に有効なものでした。それを解消する方法は、正式の離婚という行為以外になかったのです。

ヨセフはマリアを気にかけて、彼女が受ける不名誉を最小限にとどめるために、ひそかに縁を切ろうとしていました。このように考えているとき、主の天使が夢に出てきて、マリアと結婚することを恐れるな、と告げます。天使はガブリエルがマリアに告げていたことをヨセフにはっきりと証しします。つまり、マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのであり、生まれるのは男の子で、その子をイエスと名づけなさい、と。

イエスは当時、男の子のありふれた名前でした。それはヘブライ語で「神はお救いになる」という意味です。このことは人々に、モーセの死後、イスラエルの民を荒野の流浪から救い出し、約束の地に導いた偉大な先祖、ヨシュア(この名前はイエスと同じ意味と言われている)を思い出させました。そして天使は、この「ヨシュア」が人々を物理的な流浪からのみならず「彼らの罪」から非常に特別な方法で救うということを付け加えています。

マタイはこれらの出来事を、イザヤ7章 14節の中の、インマヌエル(「神は我々と共におられる」の意)を遣わすという神の約束の成就に直結するものと理解しています。そういうわけで、ヨセフとマリアの赤ちゃんは普通のありふれた名前だけではなく、彼以外には与えられないもう1つの非常に

特別な名前を持っていたと言えます。

ヨセフは、ルカによる福音書の中のマリアのように、信じ、そして天使が彼に告げた通りに行動します。こうして彼らは結婚したのです。赤ちゃんが誕生した後、イエスと名前をつけたのはヨセフです。そうすることによって、自分をイエスの「法的な」父親であると認め、更にダビデ王の子孫としてこの赤ちゃんに王室の家系を与えたのです。

ヨセフは神の救いの計画の中で、マリアと共に自らの役割を忠実に果たします。イエスが地上で彼の使命を果たす前に、イエスが成長するための家庭を備えるよう助けたのです。

Meditatio …黙祷する

ヨセフについて考えてみましょう。マリアが、神の子の母になるであろうと天使に告げられたことを話したとき、あるいは、聖霊の力によって身ごもっていると告げたとき、ヨセフはどのように感じたでしょうか。

神が望まれていることを理解したとき、それをすばやく行動しようとしたヨセフの意欲から、あなたはどんな教訓を得ることができるでしょうか。

イエスは人々を罪から救うためにやって来ました。このことはあなたにとって何を意味するのでしょうか。

神は、不可能な状況を乗り切るために恵みと力を与えてくれます。どこで、いつ神はあなたを助けてくださったでしょうか。

Oratio …祈る

詩編 24 編からの今日の節を繰り返し読みましょう。偉大なる王への賛美をもたらすためにこの箇所を用いましょう。

Contemplatio …観想する

神は人々を救うためにメシアを遣わすことを約束されました。神の誠実さについて考えてみましょう。「神は我々と共におられる」という意味の「インマヌエル」として地上にやって来たイエスを驚きをもって迎えましょう。これはあなたにとって何を意味するのでしょうか。